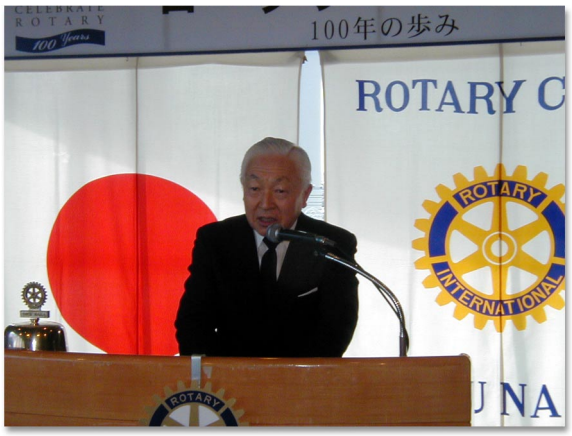
# 卓　　話

平成 17 年 1 月 18 日

## 国際ロータリー第 2630 地区ガバナー　竹腰兼寿様




本日はともに学ばせていただくことに感謝申し上げます。ロータリーに魅力がなくなったと一言に申し上げましても、ロータリー自体に魅力がなくなったこととクラブに魅力がなくなったことの二通りがあるように思われます。

本日はクラブへの魅力を少しでも増していただくべく、その一案として卓話の共有化を計画されてはとのお話を申し上げます。

その第一の方法は全会員に広くロータリアンのゲストを募るべく、アンケートを求めてください。その資料は人材の宝庫といわれる会員名簿とロータリーの友からヒントを得ることが最善な方法でしょう。

第二の方法は、今年度の未充填分類がオープンされている職種の代表者に卓話を求めましょう。この方法はロータリアンへの入会の機会にもつながり、またロータリーの広報にもつながります。

第三の方法は、会員の卓話や新会員の卓話を求めましょう。特に新会員の卓話は本人のロータリー人生にとって忘れがたいものがあります。以上の内容を集められ会員から色々な期待を想像していただきながら、年間のプログラムを作りましょう。そして次は分区内の全プログラム委員会長にお集まり頂き、クラブごとの年間の予定表を持ち寄り題名やプログラムの内容に重複がないのか確認されましたら、全クラブの卓話一覧表（ポケットサイズ）を作り、大いに利用していただくわけです。ある時にはメイクアップに卓話の魅力に炊きつけられての予定を立てられてはいかがでしょうか。又ある時にはご自分の所のクラブの例会をちょっと休み、他のクラブを訪問し、卓話を聞かせていただく予定を立てたりして、ロータリーの例会から卓話の魅力を存分に楽しまれてはどうでしょうか。そうなりますと例会の中途退席も少なくなるのではないでしょうか。そして分区内のクラブ交流が多くなり、会員同士の情報交換も多くなり、親睦の一助にもなろうかと存じます。

次にロータリー財団の一部を申し上げます。世界のロータリー財団の収入は大体年 155 億円、日本では年 18 億円、2630 地区は 8250 万円、この 60%（2006～7 年度より 50%）が 3 年後に地区に戻り（約 4950 万円）、国際親善奨学生 8 名　2750 万円、地区補助金 990 万円、マッチンググランドに 330 万円が使われます。40%収入分はロータリー財団が管理し、世界の人道的支援に使われます。又寄付の方法は年次寄付、基金寄付、師弟寄付の三種あります。年次と指定のほうは全額使用されていますが、基金のほうは文字通り利息のみの使用となります。